

第81回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：令和元年6月24日（月） 15：40－17：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

（1）委員

葛西委員長、松井委員長代理、遠藤委員、折木委員、後藤委員、中須賀委員、山崎委員

（2）政府側

和泉内閣総理大臣補佐官

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、鈴木参事官、高倉参事官、滝澤参事官、星野参事官、森参事官、山口参事官

（3）オブザーバー

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 山川理事長

4. 議事

（1）「第19回宇宙開発戦略本部開催結果概要」について、資料1-1に基づき、事務局より説明を行った。

（2）「宇宙基本計画の見直しに向けた今後の進め方」について、事務局より、資料2に基づき基本政策部会の設置案について説明を行い、次のような議論があった。（以下、○委員からの意見、質問、●事務局からの回答）

○中須賀委員：宇宙基本計画の見直しについては、よろしいのではないかと思います。前回、参画しましたがけれども、ちょうどいいタイミングというか、今、やる必要があると思うので、よろしいと思います。

●高田局長：この部会はかなり政策の分野と密接なオペレーションをしないとイケないので、いろいろと委員の方にもお願いしたい。

○葛西委員長：それでは、基本政策部会の設置につきまして了承頂いたということでよろしいでしょうか。

（首肯する委員あり）

（3）「国際宇宙探査に関する状況」について、文部科学省及び事務局より資料3に基づき説明し、以下の議論があった。（以下、○委員からの意見、質問、●事務局からの回答）

○松井委員長代理：コメントだが、資料では月探査と月に特定したような書き方になっているが、アメリカは2024年までに人を月に送ると言っているものの、元々出てきた案は、火星に行くという非常に長期的な道の中での位置付けである。だから、日本も別に月ということではなくて火星までというロングタームのゴールを見据えてこの議論をして行かないといけない。月に特化したような話になってしまうとおかしくなると思う。トランプ大統領の最近のツイッターにしても他の情報でも、みんな火星に行くワンステップだということを強調している。日本も、そのところを忘れてはいけない。

○山崎委員：昨今の状況を踏まえて、初期型Gatewayにおける協力とそれ以降との協力ということで、時間軸も考慮した点は非常によいと思う。初期型Gatewayにも日本が既に有している技術を使って貢献をするということ、その後の発展、探査では、HTV-Xを中心とした輸送系で貢献とのことだが、この技術は日本としての自律性を保つためにも優先順位が高いと思う。月面での探査が国際協力に貢献するような形での調整を行って頂きたい。

○中須賀委員：我が国の強みを活かして戦略的に参画するということでは、やはり今回のGatewayはある種の輸送の能動であるので、いわゆるロジスティックスをしっかりと宇宙で、国際協力で、作って行くという試みの出発点であろう。その時に、日本としては、燃料補給であるとか燃料貯蔵といった技術をしっかりとやることによって日本オリジナルの貢献ができると思う。何が日本として得意技なのかということを確認にして参画することが大事で、先ほどの文部科学省の資料のGatewayの物資・燃料補給というのは非常に大事と考える。

○葛西委員長：他に御意見もないようでありますから、終了したいと思います。文部科学省においては、ただいま議論頂いた点を踏まえて検討を加速して頂きたい。

（４）事務局より、資料４に基づき「昨年12月以降の宇宙システムに対する脅威・リスクの動向」の説明を行った。また、参考資料についての説明を行った。

以上